

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

阿 部 晶 子

今 井 智 子

石 坂 郁 代

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 紀 子

倉 内 紀 子

倉 智 雅 子

佐 藤 睦 子

椎 名 英 貴

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

中 村 光 一

長谷川 賢 一

春 原 則 子

深 浦 順 一

藤 原 百 合

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝 木 準

令和の最初の年も暮れようとしています。

今号には、第10回言語聴覚研究優秀論文賞を受賞された橋本幸成氏と中尾雄太氏の受賞記念随筆が掲載されています。この賞は、本誌を発行する日本言語聴覚士協会が過去2年間に本誌に掲載された若手研究者の原著論文の中で最も優れた論文を表彰するものです。

論文を評価することは容易ではありませんが、一般によい論文は次の条件を備えていると考えられます。研究内容については、①人々の健康・福祉や社会の安全・安寧に役立つ、②研究倫理に従っている、③先行研究を踏まえ、実証的手続きをとっている、④成果に新規性がある、⑤科学的合理性を保っている、が考えられます。論文の形式については、①標準的な形式に従っている、②読者を意識してわかりやすく書かれている、③事実と推論が区別されている、④事実に基づかない意見は書かれていない、などが挙げられます。受賞論文はいずれもこのような条件を備えている優れた論文でした。

今号は、第20回日本言語聴覚学会における教育講演2編、原著論文2編、調査報告1編、現場最前線2編が掲載されています。教育講演は、RDI発達指導法と声の加齢変化について最新の知見に基づき丁寧に解説されています。原著論文は、嚥下機能と言語聴覚士の職業意識に関するものであり、読み応えのある内容となっています。調査報告では臨床実習の評価法が検討され、現場最前線では聴覚障害者の認知機能評価や県士会活動が紹介されています。いずれも言語聴覚臨床の奥深さや臨床・社会活動の幅広さを感じることができる論文です。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第16巻 第4号) 2019年12月15日発行(年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行)

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価：本体2,000円＋税

2019年年間購読料：本体7,407円＋税(4冊、送料発売会社負担)

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2019, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)